

山木綾子の議会ウォッチング

# やまきあやこ

事務所 350-1137 自宅 350-1137  
川越市砂新田4-4-6 サングリーン高階 504 川越市砂新田5-27-9  
TEL 049-265-3678 FAX049-265-3799 TEL/FAX049-242-3543  
e-mail a-yamaki.11-26@nifty.com  
URL <http://www.yamaki-ayako.com>



川越市議会議員

2023年3月25日  
号外 川越版  
立憲民主党編集部  
〒350-8601  
川越市元町1-3-1  
川越市役所 6F  
政策フォーラム内

春号

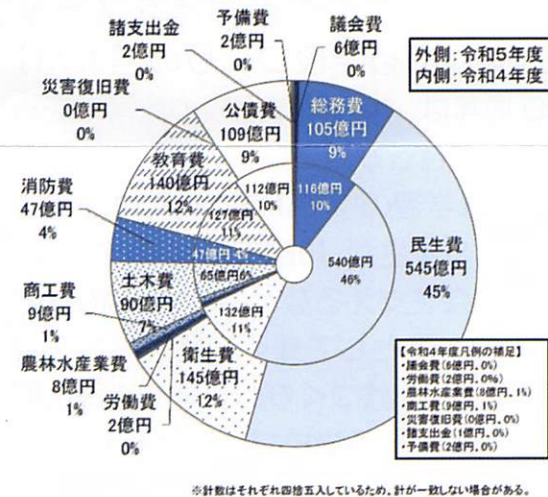
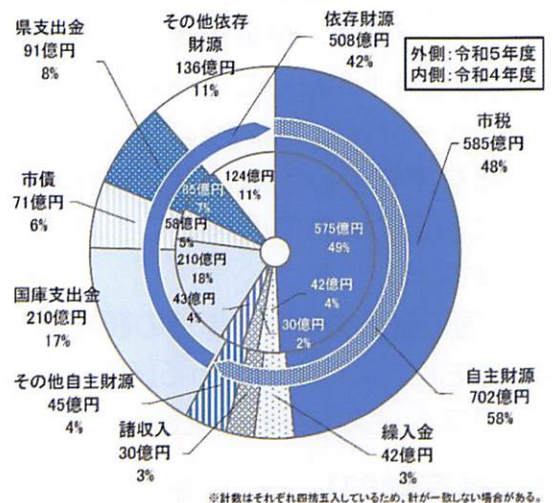
## 令和5年度 一般会計予算 1,210億円

～特別会計と合わせて予算額は、**2,074億784万円**～

令和5年度一般会計予算の総額は、令和4年度当初予算と比較して42億8千万円(3.7%)の増額予算となる。

**歳入**の根幹をなす市税は、給与所得や企業収益の持ち直しが、続いていることから個人市民税や法人市民税の増と共に、家屋の新增築等による固定資産税の増等により、総額で前年度より9億7千638万8千円、1.7%増の584億5千398万5千円を計上した。

**歳出**では、民生費が過去最大の545億4千827万5千円を計上するとともに、衛生費・土木費・教育費については対前年度比で大幅な増加をしている。



### 民生費とは高齢

者福祉・児童福祉・母子福祉・障害者福祉・生活保護や国民健康保険・介護保険への繰出し金です。

**教育費**は、139億9千964万4千を計上した。小・中学校の施設整備や更新に係る経費等の増により前年度より12億6千942万9



千で、前年度より10.0%の増となった。

**市債残高**(川越市の借金)平成25年度年以降、増加で推移してきましたが、令和元年度からは減少に転じている。令和5年度は歳出の公債費に対して歳入の市債が下回ったことにより、令和5年度末の市債残高は前年度末から33億2千429万6千円3.7%減の874億2千516万1千円を見込んでいる。(詳しくは川越市のホームページでどうぞ)

## 令和5年度「市政方針」「教育行政方針」について川越政策フォーラムを代表して質疑を行った。

(紙面の都合で全部所は掲載できませんでした。)

**問 令和5年度予算における各部の算出予算要求額に対する内示額の審査率ほどのくらいであったのか。又、年度においてどのような事業に力を入れるのか。**

**【都市計画部】** 令和5年度予算における都市計画部の歳出予算要求額に対する内示額の査定率は、73.7%で、旧川越織物市場関連事業、南古谷駅周辺地区整備事業、新宿町一丁目防災広場施設等整備事情については、いずれも令和5年度に新たな局面を迎える事業であり、今後一層推進力をもって取り組んでいきたい。

**【産業振興部】** 令和5年度予算における産業振興部の歳出予算要求額に対する内示額の査定率は、89.7%で、企業を誘致していきたい。また、昨年11月にリニューアルオープンしたグリーンツーリズム拠点施設では、農業関係者向けの研修を実施するほか、収穫体験や食体験など、気軽に農場の魅力にふれることができる機会を提供する。また、周辺施設の中心市街地の観光などと連携す津とともに、より魅力のある施設とするため、キャンプスペースの整備を推進する。

**【保健医療部】** 令和5年度予算における保健医療部の歳出予算要求額に対する内示額の査定率は、98.1%で、「新型コロナウイルス感染症対策」である。現在、国では、新型コロナウイルス感染症について、令和5年5月8日から5類感染症に位置付けることとしており、それまでは、現在の位置付けでの対策に取り組んで行く。また、5月8日以降は、今後、国や県から示される方針を踏まえ、適切に対応して行く。

次に、「子ども・子育て支援」である。我が国は、「少子高齢化・人口減少時代」に向けて、持続可能な社会を目指し、その最重要政策として「こども・子育て政策」を位置付けている。そこで、「出産・子育て世界への伴走型相談支援及び経済的支援」や「産後ケア事業」などを着実に進めていきたい。

**【文化スポーツ部】** 令和5年度予算における文化スポーツ部の歳出予算要求額に対する内示額の査定率は、77.4%で、本市におけるスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するための、市民を対象としたスポーツに関するアンケート調査の実施を予定している。美術館においては、夏・秋の特別展を、川越ゆかりの作家の作品展を計画している。

**【環境部】** 環境部の算出予算請求に対する内示額の査定率は80.4%で、進めて行く事業は「第三次川越市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の改訂である。再生可能エネルギーや省エネルギー機器の普及促進。太陽光発電システムや電気自動車などは、脱炭素化の取組に留まらず、エネルギーの供給不安が社会問題となっている現在において、これらの問題を解決する手段の一つとして、貢献できるものと考えている。



### 教育行政方針

**【市立川越高等学校の百周年をステップにした、魅力ある学校づくりの考え方】** 創立100周年は、市立川越高校の教育力を再確認し、さらに磨きをかける契機と捉えている。例えば、探究的な学習の中で川越の街について学び、愛着を持った卒業生が、川越市で創業して川越市から日本の社会を支えるなど、市立川越高校が、川越市の人的財産として輝く卒業生たちを育てるということが、時代づくりの要請や市民の期待に応え得る、魅力ある学校づくりと考える。

**【教員不足】** 2月1日現在、年度途中の退職や産休・育休の代替として、定員に対して小学校において6名、中学校において2名不足している状況でございます。令和5年度については現在のところ不足することなく、配置ができる見込みである。